

**【取材調整可能・有識者(大学教員)のご紹介】****誰もが学ぶ権利、誰もが輝く可能性****発達障害を持つ子どもが、通常の学級で学ぶためにできることとは****特別支援学校 元教諭で小学校 元校長の准教授が明かす、教育現場のリアル****摂南大学 全学教育機構 松浦 正典（まつうら まさのり） 准教授**

摂南大学（大阪府寝屋川市、学長:久保康之）では、9学部17学科にわたる専門分野を持つ教員への取材を受け付けております。今回は、**摂南大学 全学教育機構の松浦 正典 准教授**を紹介します。

文部科学省が実施した、「平成22年度通級による指導実施状況調査」※1によると、通級による指導※2を受けている生徒は年々増加しています。また発達障害を持ち、通級による指導を受けている生徒は、13年間で約5倍になっています。現在個別の教育的ニーズがある生徒に対して自立と社会参加を見据え、教育的ニーズに応える指導を提供できる「インクルーシブ教育」という方法を実践する学校が増えています。発達障害の子どもは、特別支援学級だけでなく、通常学級で得意分野だけ学ぶなど、個性を活かし選択をすることができます。「どのような基準で個性を見つけ、選択をすれば良いのか」「学校ではどんなことが行われているのか」そんな教育現場での疑問について特別支援学校の元教諭で小学校の元校長でもある松浦 正典教授が解説します。

ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

※1 文部科学省「平成22年度通級による指導実施状況調査」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/\\_icsFiles/afieldfile/2012/05/18/1306725\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/05/18/1306725_1.pdf)

※2 「通級による指導」とは、大部分の授業を小・中・高等学校の通常の学級で受けながら、一部、障害に応じた特別の指導を特別な場（通級指導教室）で受ける指導形態

**◆プロフィール**

**所属** : 全学教育機構  
**職位** : 准教授  
**学位・資格** : 学士（社会学）・修士（学校教育学）  
**研究分野** : 人文・社会 / 教育学



松浦 正典 准教授

**◆お話しできること****・子どもの個性を活かす「インクルーシブ教育」とは**

⇒「インクルーシブ教育」は健常者にも必要不可欠

多様な子どもが通えるよう変革するインクルーシブ教育について解説します

**・1人で悩まない発達障害への支援 教育現場における選択肢の増加**

⇒発達障害の子どもとどう接したら良いか戸惑う保護者

時代の変化による選択肢の増加について解説します

**・授業のユニバーサルデザイン 子どもたちにとって本当に必要なこととは**

⇒授業に見通しを持たせることの重要性

主体性や集中力を高める授業のユニバーサルデザインについて解説します

本件に関わる内容を幅広くお話可能です。ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

※できる限り調整をさせていただきますが、取材のタイミングによってはお受けできない可能性もある旨ご了承ください。

【報道関係者様のお問い合わせ先】

摂南大学広報事務局（アンティル内） 担当：佐藤、阿部、水原、藤井、大瀧

TEL：06-6225-7781 E-MAIL：[setsunan\\_pr@vectorinc.co.jp](mailto:setsunan_pr@vectorinc.co.jp)

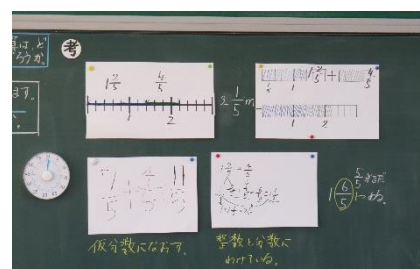
## インクルーシブ教育を実践した事例

インクルーシブ教育とは、多様な子どもたちが地域の学校に通うことを保障するために、教育を改革するプロセスです。2022年国連は日本に対して、障がいのある子どもとない子どもを分離する教育をやめるように勧告し、すべての子どもが共に学ぶ「インクルーシブ教育」を進める必要があると指摘しました。国籍や人種、宗教、性差、経済状況、障がいのあるなしに関わらず、全ての子どもたちが対象となっています。

### 野田市立宮崎小学校（千葉県野田市）

#### 【授業のユニバーサルデザイン 生徒が主体性を持つための工夫】

松浦 正典准教授が校長を務めた野田市立宮崎小学校では、2020年から「授業のユニバーサルデザイン」を中心に研究を行っています。また、2021年からはSDGs「だれ一人取り残さない学校・学級を」学校経営方針に位置づけました。学習の流れを明確に提示することや、単元のゴール設定を行い学習計画を掲示を行うなど、授業の見通しをもたせ生徒の主体性を養う工夫をしています。具体的には、生徒が授業に集中できるよう教室前方にある余分な刺激物（掲示物）を取り除き、「いま大切な情報」がわかりやすい環境づくりを行っています。また、調べ学習やグループトークを増やすことに加え、話し合いを活発化するため、生徒が出したアイデアを図に提示し、図に書いている内容について話し合うなど、すべての生徒が主体的に授業に取り組むための工夫を実践しています。



### 豊中市立南桜塚小学校（大阪府豊中市）

#### 【発達障害を持つ子どもが、どのようにすれば通常学級で学べるか】

南桜塚小学校では、約50年前から「インクルーシブ教育」を取り入れており、2023年8月時点では全校生徒824人のうち、障がいのある子どもは47人在籍しています。障がいのある子どもがクラスにすることで、障がいのない子どもは「どのようにしたら一緒に遊べるか」を自然に考えるようになります。例えば体育のバスケットボールの時間、「障がいを持つ子どもがボールを持った際は数秒間持って待機できる」など臨機応変にルールを考え、全員が参加できるよう工夫しています。

クラスの子どもに「障がいを持つクラスメイトについてどう思うか」とインタビューすると、「普通の生徒、クラスの友達」や「よく遊ぶ友達」など、何一つ特別なことはないと回答します。「自分でできることは自分で行う、できないことは誰かに頼む」という障がい者も健常者も変わらない当たり前のことを、当たり前で体現しています。



【報道関係者様のお問い合わせ先】

摂南大学広報事務局（アンティル内） 担当：佐藤、阿部、水原、藤井、大瀧

TEL：06-6225-7781 E-MAIL：[setsunan\\_pr@vectorinc.co.jp](mailto:setsunan_pr@vectorinc.co.jp)